

第 35 回リハ工学カンファレンスの開催報告

小林 博光

総合せき損センター

1. 不安の中で

これまで何度もリハ工学カンファレンスの実行委員を経験してきましたが、オンラインによる開催は初めてでした。どれくらい参加していただけるのか、協賛団体や企業は協力いただけるのか、不安要素いっぱいの実行委員会となりました。結果的には 73 の演題と 170 名を超える方々に参加いただきました。

何度も行われたオンラインでの実行委員会で頭を悩ませたことの 1 つに、参加費の設定がありました。リハ工学カンファレンスに参加する方々を意識しつつ、不採算を回避しなければならない参加費を熟考した結果、一般参加費は 5,000 円、学生参加費は 1,000 円、初めてカンファレンスで発表する当事者は無料としました。協会員と非協会員との差別化は、講演論文集の有無にしました。概要集は、誰でもダウンロードして閲覧できるようにしましたので、論文集を持たない参加者にもある程度は内容を理解した上で発表を視聴できたと思います。今後もこの設定が継続するか否かは不明ですが、おおよその基準にはなり得たかと思います。

2. 当日の様子

オンライン会議システム『Zoom』の『ウェビナー』機能を活用しました。別日程で予備練習を行ったこともあり、発表者も運営側もほとんどトラブル無く進行することができました。

発表は 1 演題あたり 12 分間に設定し、ほとんど時間超過することなく進行できたのはオンラインならではかもしれません。

発表方法はプレゼンテーションソフトの利用が大半でしたが、全編動画で発表した方や、プレゼンソフトは一切使用せず、自分自身を写して口頭で発表した方、PC の合成音声で発表した方もいらっしゃいました。全編動画発表の方や合成音声の方も、冒頭のあいさつや質疑応答は直接口頭で行っていたため、違和感はありませんでした。プレゼンソフトを利用しなかった方は当事者としての発表でした。ベッド上からカメラをまっすぐに見つめて、自分の言葉でゆっくり丁寧に発表する様子は、当事者としての想いを強く感じる事が出来ました。全体を通して質疑応答も活発に展開され、例年のカンファレンスよりもむしろ多かった印象でした。

一通りセッション内の発表が終わった後のアフターセッションでは、セッション内の発表者全員の顔を画面上に表示し、座長や司会や視聴者とディスカッションして和やかな雰囲気情報交換を行うことが出来ました。

その日のセッションが全て終わった後に、例年行われている『交流会』の代わりとして、自由に誰とでもディスカッションできるバーチャル空間『oVice』を活用し、さらに自由な雰囲気飲食しながら語り合えるオンライン交流会を設けました。数十人の方が利用したようで、相談事や雑談、リハ工学とは何かなど、ディープな話が深夜まで展開されました。

オンラインで無言・無音状態が続くと緊張し質問しづらい雰囲気に包まれますので、なるべく間を開けずに雑談も取り入れながら『リハ工カンファレンス』の空気感を醸し出せたと思います。参加された皆様、いかがだったでしょうか？

総合せき損センター 医用工学研究室

E-mail: kobaya4@sekisonh.johas.go.jp